

## 令和5年度 リンデンホールスクール中高学部 教育課程特例校自己評価

昨年度の環境教育・英語イマージョン教育に関する活動の概要について主立った内容を以下に列挙する。

### 1 回収プラスチックを使った商品開発。九州大学うみつなぎシンポ 2023に参加

今年の12年生は、海ごみであるプラスチックの海洋汚染の問題に取り組み、海浜清掃から始め、回収プラスチックを活用してアクセサリなどの新商品を作り、自分たちの独自のブランドを作り、それを学園祭等で売ること等で人々に環境問題を身近なものとして意識してもらおう喚起を行った。この活動を通して、リンデンホールスクール中高学部は九州大学「うみつなぎシンポ 23」に参加し、実践発表をした。



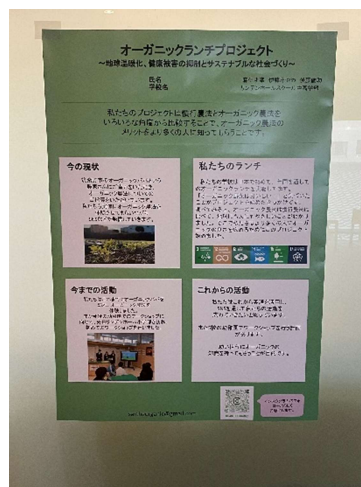
#### 評価

本プロジェクトは海ゴミ海岸清掃と、アクセサリや雑貨を作ることに加えて、生徒達が独自のブランドとして価値を持たせ商品開発したことが評価を得ることに繋がった。文化祭での販売も、多くの児童生徒と保護者が購入し、成功につながった。

### 2 オーガニックランチプロジェクト。ユース水フォーラムアジアで実践発表

本校は2021年よりオーガニック給食を提供している。今年度は、このオーガニック給食を通してESD委員会、保健委員会が中心となって、オーガニック野菜がなぜ人間の身体や環境にいいのか、持続するためには何が必要なのかなどを調査、研究している。また、ESD委員会では給食の生ごみ、食べ残しをコンポストにし、それを使って校内の畑で野菜を育て、その野菜を給食に使ってもらうという「循環」を実行する活動も行っている。このオーガニック給食の取り組みについて、代表が11月にユース水フォーラム

ムアジア 2023 で発表した。



### 評価

本校のオーガニックランチには生徒達が自ら作ったオーガニック野菜が使われている。生徒達は、地元企業のオーガニック農法を学びに行き、有機栽培のためにコンポストを利用して肥料を作り、自ら農園で野菜を育てる活動をしている。人が生涯に渡ってウェルビーイングであるために、食の教育に力を入れる本校の取り組みは内外から高い評価を得ている。

### 3 糸島海岸清掃活動

前期課程生徒により実施した。

毎年同じ場所の清掃に取り組んでいるが、年々と綺麗になっているように感じるという言葉も多く生徒が口にしている。現段階では清掃活動にとどまっているが、経年での変化やまとめをし、次年度に繋げられるようにしていきたい。



#### 4 後期課程生徒による研修旅行

関西への研修旅行では11年生が環境学習のためゴミ処理場の見学を行なった。



#### 5 教科としての「環境」(Environmental Science)

##### 7年生

The Grade 7 Science students have an introductory study of the science of water and the study of Ecology. This is then expanded into a consideration of these subjects in Environmental Science. The main chemical properties of water are discussed in relation to the Water Cycle, and how that affects the human, animal and plant environment on land and the effect on life, in oceans and waterways. The students study different causes of water pollution and the effect that this can have on agriculture and the natural environment. Together with this, they study minerals and resources. The students consider the atmosphere and the issues associated with global warming, connected to climate change. All of these aspects are considered with an underlying relationship and connection to the WHO/UNESCO Education for Sustainable Development guidelines.

##### 8年生

28 hours were spent on Environmental classes in 2023-2024.

Environmental classes focused on different topics of environment and tried to see how these impacted students on a **daily life** basis. In order to understand **how environmental factors impact humans**, a “think globally, act locally” approach was developed.

At first **Earth systems** were studied and examples of how they relate to daily life for students. **Atmosphere, geosphere, hydrosphere and biosphere** were

studied to understand how dynamic systems interact together and influence students here in Japan. For example : earthquakes, typhoons, global warming, water precipitations and floods. All of these were approached with concrete **examples in Japan and our city of Fukuoka.**

Secondly, **ecology** was tackled with a **study of habitat in the English Garden** next to the school. The importance of relationships between living things and non-living things was studied and students were made aware of the **importance of inter-dependence.**

Then 2 big study-cases with research and essays were done. One was on **global warming** and the other on **wind farm.**

To finish, a **multi-task essay** was produced to address students` thoughts and mastery of the various points studied in the year. They had to produce a short essay, justify their knowledge, give examples of actions they are taking and answer few ecological questions.

### **Students**

Students did good work in the classroom and in the field collecting data. Data analysis was a bit harder for them and understanding how different factors interact together as well. Another difficult point for students in using creative thinking or thinking outside the box.

To support better learning for students next year, an approach where students are given more independence after being shown clear examples will be used. Students will be able to understand what is expected and try to reproduce it.

### **Teacher**

I feel environmental science is a great class that is very important for students. I realized that most students are familiar with the big events on Earth (global warming, pollution) but lack knowledge of how these relate to them and to other issues (for example global warming impacts politics, economy, farming...). I also wish students would show more eagerness to study the topic, I feel a lot of news on the subject is negative and students

would rather focus on the positive side of things.

## 9 年生

### 1) .経過

本授業では環境問題がいかに複雑で解決困難な問題なのかを学習し、多角的に見なければならぬ課題であることを知ることを企図して授業を計画した。

授業ではまず水俣病、オゾンホールに関する講義と映画『エリン・ブロコビッチ』（ヒンクリー地下水汚染訴訟を元にした映画）の鑑賞を通して環境問題と企業利益の衝突、科学が環境への影響を予測することの限界について学習し、環境問題が理想論で解決できる単純なものではなく、経済や関係者の相反する思惑まで含めて考えなければならぬ複雑な問題であることを学んだ。また地球温暖化に関する最近の研究の紹介を通して環境問題を科学的に解決する試みがどのように行われ、どのような困難に直面しているのかを知ること、環境問題の解決がいかに困難で時間を要するものなのかを学習した。

学習の最後に生徒は各自 1 つの環境問題について現在行われている対策を一つ取り上げ、科学的、経済的な観点から調べて自分なりに数値を用いて評価し、レポートを作成した。

### 2) .評価

テーマが生徒の能力に比して高く、レポート課題では多角的に評価するという目標を達成できた生徒は多くはいなかった。また事前にレポートの書き方も指導したが、指導した形式に準拠した形では書けなかった生徒も少なからず存在し、他校の生徒よりレポートを書く機会が多い割にスキルが身につけていない実態が浮き彫りになった。

一方で環境問題が複雑な問題であり、国際社会が問題解決に向けて全く努力をしていないかのようにも見えるが、実際には解決に向けて様々な試みが行われていること。しかしながらどの方法も課題を孕んでおり、完成には時間を要するものであるということは理解できていた。

## 6 英語イマージョン教育について

本校は、小学部より続く英語イマージョン教育によって、英語をツールとして世界で活躍できる人材の育成に努めている。英語で教科を学び、日本文化を深く理解することは、国際的リーダーの資質として重要であり、国際社会での活躍を期待されている。

11 年生（高 2）、12 年生（高 3）では国際バカロレア・ディプロマプログラムを実施し、アクティブラーニング・探求学習を通じて、国際的視野、論理的思考、発表能力の

向上を目指している。

#### 実績と成果

英語能力を測る試験としては、2016年度より全校生徒に IELTS（アカデミックモジュール）を実施し、12年生（高3）では平均 6.5 から 7.0 を取得している。大学進学においても、IB を利用し、国内大学はもとより、アメリカ、オーストラリア、イギリスなどの大学に合格者を出している。

#### 自己評価

英語能力の育成に関して、それなりの成果を挙げていると思われるが、やはり年度によってのバラツキは否めない。一人一人の環境、能力に応じた指導方法の開発が必要である。国際バカロレア・ディプロマプログラムにおいては、その学習において、生徒一人一人が課題に向き合い、計画的に、問題を解決していく能力が求められる。IB の学習者像に合わせ、その人間育成にも力を注いでいきたい。